

ごん吉くんしポート〜南吉もやま話〜

第23回 半田高校の旧武道場

新美南吉をはじめ、時代小説作家の澤田ふじ子、ノンフィクション作家の家田莊子、経団連元会長の平岩外四、同現会長の榊原定征など、多くの文化人、経済人を輩出した半田高校は、大正8年に愛知県立第七中学校として開校しました。それから数えて、平成30年にちょうど百年目を迎えます。

当初は半田第一尋常高等小学校（現・半田小学校）を仮校舎として開校しましたが、翌年、現在地に一部の校舎が完成して移転しました。大正11年には愛知県半田中学校と改称。13年11月にはすべての校舎が竣工し、落成式が執り行われました。

8回生として新美南吉が入学したのは、それから1年5か月後の大正15年4月のことです。この年、半田第二尋常小学校（現・岩滑小学校）を卒業した男児32人のうち、中学に進学したのは南吉を含めてわずか3人。

零細商店（晝屋兼下駄屋）の子の中学進学は珍しいことでしたから、完成間もない新校舎で入学式に臨む南吉の胸のうちは、どんなに誇らしかったことでしょう。

南吉が眼にした校舎のほとんどは、後に建て替えられました。が、ただひとつ旧武道場だけは今も保存されています（写真）。戦前の中学教育では、剣道や柔道といった武道が授業に採り入れられ、各地の中学校で武道場が建設されました。県内には、戦前の学校で使われた鉄筋コンクリート造の武道場が3棟残っています。半田高校の武道場は最も古く、建築史的にも価値があるそうです。

学科では首席争いをしながら運動全般が苦手な南吉にとって、武道は楽しい科目ではなく、寒稽古をさぼることもありました。3年生の武道大会では珍しく相手を負かし、屈折した心境を日記に書いています。

同窓会の冬会では、創立百周年事業として、旧武道場を耐震補修して生徒が使えるようにするために募金をしているよ。関心のある人は冬会のホームページを見てね。



「武道大会。余は、二年の男を一人負かした。負ける事に誇を持つ余にとつては、奇せきと云える。おそろく之が、勝つと云う事の初めの最後だろう。」（昭和4年1月19日）
南吉をはじめ、ここで汗を流した大勢の生徒たちの思い出が詰まった建物です。

知多半島公立3病院の電子カルテ情報の共有が始まりました

半田市立半田病院・公立西知多総合病院・常滑市民病院の3病院間で電子カルテ情報の共有が始まりました。名称は、「知多半島医療連携ネットワーク」といいます。今までは紙の紹介状やレントゲン画像の収めてあるCDなどで患者情報を提供していましたが、ICT（情報通信技術）を使い、それぞれの病院から他病院のレントゲン画像や血液検査結果などを閲覧できるようになりました。これにより紹介や転院がスムーズに行われ、重複する検査が減り、費用負担の軽減にもつながります。また、紹介元でも患者さんの紹介先の状況が確認でき、2人の主治医がいるような安心が生まれます。



【問合わせ】半田病院 医療情報管理室 ☎22-9881